

牧山
耕平
述

初學經濟論

再版

卷一



K110.33

12

牧山耕平譯

初學經濟論

全三冊

明治十二年十一月再刻



原序

此書ハ、本題ニ示スガ如ク、初學ノ經濟書ニシテ、
專ラ幼童入學ノ階梯タルニ過ギズ、我輩此書ヲ
著ス所以ノ意ハ、是レ我國ノ普通學校ニ於テ、此
ヲ以テ其教本トナサンコトヲ冀フニ在ルノミ、從
來普通學校ニ於テ、經濟學ヲ教フルノ年月ハ、一
期若クハ二期ニ踰ヘズ、然ルニ通常ノ教本ハ、多
クハ簡編沽博ニシテ、其學期ノ間、之ヲ教フルニ
匆々一過スト雖モ、猶ホ其盡シ難キヲ奈何セン、
今此書ノ如キハ、則然ラズ、能ク他ノ日課ヲ妨グ

ルヲナクシテ、且ツ其終始ヲ全クスルヲ得ベシ、
嘗テ某氏アリ、數年ノ間、經濟學ヲ幼童婦女ニ傳
ヘテ、教導ニ練達セシ後、一書ヲ著シテ言ヘラク、
此學ヲ兒輩ニ教フルニハ、釋義ト題言トヲ以テ
スルニ若カズト、此書ハ、即チ其言ニ從ヒテ案ヲ
立ツルナリ、而シテ此書ハ、專ラ此學ヲシテ實行
ニ適セシメンコトヲ主トシ、殊ニ結社ノ條ニ至リ
テハ、我輩ノ英吉利及ビ日耳曼ニ於テ、親シク實
驗シタル所ヲ舉ゲタリ、願クハ獨リ學校ノ幼童
ノミナラズ、苟モ此學ニ志アル者、皆能ク之ヲ熟

讀セバ、其裨益スル所大ニ見ルベキ者アラント
ス、抑、我輩此書ヲ著スニ當リテヤ、歐米各國ニ於
テ、其標準トスル所ノ經濟書ハ、泛ク之ヲ參考シ、
且ツ諸家ノ一定シタル確論ハ、簡約ナル語ヲ用
井テ之ヲ詳解セリ、獨リ實算勞銀元手ト、可當勞
銀元手トノ區別ニ至リテハ、是レ全ク我輩ノ意
見ニ出タル新說ニシテ、未ダ曾テ前人ノ言ハザ
ル所ナリ、蓋シ此說タル、勞銀ニ係ル所ノ紛論異
說ヲシテ、一ニ歸セシムルニ足ルベシ、其他ハ、一
切從前ノ舊論ヲ取り、其辭ヲ新タニシテ、書載シ

タルニ過ギズ、往々ハシカゴトリビシ新聞紙ノ名論説ヲ引用シ、僅ニ數語ヲ取捨シテ、其全文ヲ書載スルモノアリ、此書ヲ兒童ニ授クルニ、教師生徒ヲシテ、必ズ釋義ト、每章ノ題言トヲ背誦セシムベシ、然レモ、其暗記スベキハ、獨リ此二事ニ止マリ、其餘本文ノ如キハ、一々之ヲ詳記スルニ及バズ、生徒ヲシテ、自ラ類例ヲ舉ゲ、或ハ其證據ヲ引テ、意義ヲ解説セシムベシ、是レ生徒ノ能ク其事ヲ解説スルト否トヲ試ミルハ、其レヲシテ、自ラ新タニ例證ヲ設ケテ、之ヲ講セシムルノ勝レ

ルニ若カザレバナリ、此事我輩多年ノ經驗中、竊カニ得タル所ナルガ故ニ、敢テ是言ヲ附シテ世ノ教師ニ告グト云フ、

亞米利加合衆國シカゴ府千八百七十五年六月

アルフレッド・トマソン

ジョン・ダート・レロル

同識

初學經濟論

例言

一世人動モスレバ輒チ謂フ、經濟學ノ教フル所
ハ、專ラ貨財ヲ積ミ、富業ヲ致シ、且ツ以テ一身
ノ利ヲ圖ルニ在リト、夫レ人タル者、唯、一身ノ
爲メニ、積財致富ヲ是レ圖レバ、其弊ヤ、流レテ
貪婪ト爲リ、又以テ吝嗇ト爲ル、既ニ貪吝ナレ
バ、又終ニ刻薄ニ陷リテ止ム、是レ庸人ノ常ニ
免カレザル所ノ通患ナリ、若シ果シテ世俗ノ
言ノ如クナレバ、則經濟學ハ人ヲシテ貪吝刻

薄ナラシムルノ學科ナリト謂フニ至ラン、然レモ、其實ハ大ニ然ラズ、所謂富トハ、貨財ニ豐カナルノ謂ニ非ズ、凡ソ世間ノ百物、其價值ノ輕重貴賤ニ論ナク、彼此交易シ得ベキモノ、皆是ナリ、又、積財トハ、積テ散ゼザルノ謂ニ非ズ、產物ヲ興起センガ爲メニ、先ヅ其財本ヲ節用蓄積スルノ謂ナリ、蓋シ經濟學ノ本旨ハ、能ク積ミ能ク散シ、又能ク貨ヲ殖シ、且ツ有無ヲ通シテ、以テ世間ノ便易ヲ進ムルニ在リ、此ニ由テ之ヲ觀レバ、此學タル、豈有益ノ大ナル者ニ

非ズヤ、有ッセト氏曰ク、經濟學ハ、仁人ノ學ナリト、善哉此言ヤ、夫レ人、苟モ仁愛ノ心深ク、友誼ノ情厚クシテ、衆庶ノ爲メニ、利ヲ圖ラント欲セバ、其レ之ヲ忽セニスベカラサルナリ、方今文運大ニ開ケ、該書ノ類、既ニ先輩ノ譯述ヲ經テ、世ニ行ハル、モク尠ナカラズ、然レモ、經濟ノ學タル、事遠大ニ、關カリ、論高尚ニ、涉レルヲ以テ、其繁簡宜キヲ得、初學ノ便易ヲ資クル者ニ至テハ、亦甚罕ナリ、是レ予ノ深ク憾ムル所ナリ、此書、本ト初學ノ爲メニ、著作シタル者

ニシテ、實ニ童蒙ヲ誘掖スルノ善本ナリ、因テ
淺見寡聞ヲ掃ラズ、譯シテ以テ之ヲ梓ニ上ス、
其行文ノ拙劣ナルハ、固ヨリ言ヲ待タズト雖
氏、看者幸ニ之ヲ棄テズ、全篇ヲ熟讀シ、終始ヲ
通覽シテ、爲メニ得ル所アラバ、予ノ幸何ヲ以
テ之ニ過ギン、

一書中勞銀ノ區別ハ、原序ニ述ベタルガ如ク、未
ダ曾テ前人ノ言ハザル新說ニシテ、邦人ノ耳
目ニ慣レザル所ナレバ、或ハ其了解シ難カラ
シトヲ慮リテ、一ニノ註解ヲ下スト雖、猶ホ

未ダ其精詳ヲ得ズ、請フ前後ヲ參考シテ知ル
所アレ、

一書中ニ散見スル所ノ弗ハ、之ヲ改メテ圓トシ、
其改メ難キ者ハ、仍ホ原語ヲ存ス、ヤードハ、之
ヲ三尺ト譯ス、即チ「ヤード」ハ、六尺、三「ヤード」ハ、
九尺ナリ、其他權衡ノ名モ、亦宜キニ隨テ和名
ニ改ム、是レ此等ノ名稱ハ、特ニ類例ヲ設クル
者ニシテ、分寸毫釐ノ差ナキヲ要スベキニ非
ザレバナリ、又「シリング」等ノ下ニ
分註シテ、我幾許ニ當ルトナス者モ、亦其大概

ヲ示スノミ、
二 括弧ノ間(第何章ヲ見ヨ)トアルハ、一ニ原書ニ
從フ者ナリ、書中往々煩雜ヲ厭フベキ所アレ
バ、敢テ私ニ之ヲ取舍セズ、又分註ノ中(原)ノ字
ヲ冠スル者ハ、原注ニ關カリ、(按)ト書スルハ予
ガ鄙見ニ係ハル、又我邦民俗ニ解シ難キ所ノ
言語ハ、往々之ヲ註解スト雖モ、其簡明ナル者
ニ至テハ、別ニ註文ヲ加ヘズト云ス、

明治十年九月
譯者 識

初學經濟論總目錄

卷一

- 釋義第一 經濟學ノ義ヲ釋ク
- 釋義第二 富ノ義ヲ釋ク
- 釋義第三 物貨ノ義ヲ釋ク
- 釋義第四 財本ノ義ヲ釋ク
- 第一章 富ヲ造リ出ス爲メノ三要件ノ事
- 第二章 自然力ノ富ナルト否トノ事
- 釋義第五 固定、流通ナルニ財本ノ義ヲ釋ク

第三章

固定或ハ流通ノ財本ヲ要スル事

第四章

財本ハ隨テ費セバ隨テ復スル事

第五章

財本ハ勞動ヲ限定スル事

釋義第六

需要ノ義ヲ釋ク

釋義第七

供給ノ義ヲ釋ク

第六章

需要供給ニ由テ物價高低スル事

第七章

物貨ノ平價ニ至ル事

釋義第八

有用ト無用ノ消費區別ヲ釋ク

第八章

有用ノ消費ハ勞動ニ利アル事

第九章

無用ノ消費ハ勞動ニ害アル事

第十章

分業ノ事

釋義第九

實算ト可當ノ勞銀區別ヲ釋ク

第十一章

可當勞銀元手ノ増減ノ事

第十二章

實算勞銀元手ノ増減ノ事

第十三章

職業ニ由テ勞銀ニ高低アル事

第十四章

勞銀ノ平均額ヲ得ル事

第十五章

勞銀ノ高低ヲ辨識スル事

第十六章

勞銀騰貴ノ事

卷二

第十七章 勞動ヲ省クベキ機械ノ事

第十八章 高勞銀間大利潤ヲ得ル事

釋義第十 傭工ノ同黨

釋義第十一 雇主ノ連合

第十九章 傭工ノ同黨害アル事

第二十章 雇主ト傭工ノ論争ヲ中裁スル事

第二十一章 會社結立ノ事

第二十二章 成業同社資本ヲ用井ル良法ノ事

卷三

第二十三章 造出ノ富ヲ三分スル事

第二十四章 富ハ時アリテ三分、時アリテ二分、

時アリテ一人之ヲ領有スル事

第二十五章 地代利潤及ビ勞銀ノ關係ノ事

釋義第十三 價格ノ義ヲ釋ク

釋義第十四 代價ノ義ヲ釋ク

第二十六章 價格ノ一般ニ高低セザル事

第二十七章 代價ノ一般ニ高低スル事

第二十八章 價格ハ造出ノ元費ニ基ク事

第二十九章 至當ノ賣買ハ彼此ニ利アル事

第三十章 物ト物トノ交易不便ノ事

第三十一章 貨幣ハ交易ノ媒助タル事

第三十二章 貨幣ハ價格ノ度トナル事

第三十三章 通用貨幣ハ物貨ニ等シキ事

第三十四章 金銀ハ貨幣ノ用ニ適スル事

第三十五章 換ヘ難キ貨幣ノ害ナル事

第三十六章 惡貨幣ハ良貨幣ヲ退ザクル事

第三十七章 貸借ノ貨幣ハ財本ニアラザル事

第三十八章 金融壅塞ノ事

第三十九章 金融壅塞ヲ回復スベキ事

釋義第廿四 租税ノ義ヲ釋ク

釋義第廿五 海關税ノ義ヲ釋ク

釋義第廿六 税則ノ義ヲ釋ク

第四十章 税則ハ專ラ國費税ヲ施行スベキ事

初學經濟論卷一

牧山耕平 譯

釋義第一 經濟學ハ富ヲ造出シ之ヲ分配シ及
ビ之ヲ交易スル法ヲ教フル爲メノ學問ナリ
凡ソ天下ノ事物ニハ各其法ト云フモノアリ
法ニ二種アリ、一ヲ人法ト曰ヒ、一ヲ天法ト曰
ス人法トハ人造ノ法ニシテ、天法トハ天然ノ
法ナリ、譬ヘバ、學校ニテ、幼童ヲ教フル爲メニ

設ケタル法ハ、是レ人法ニシテ、幼童ノ漸次ニ
生長シテ、一個ノ男子、若クハ女子トナリ、後又
漸次ニ老衰シテ、終ニ死スルガ如キハ、是レ天
法ナリ、平蕨ノ樹上ヨリ落ち、地球ノ日ヲ繞リ
テ轉スル如キハ、是レ又天法ノ然ラシムル所
ナリ、今此書謂フ所ノ富ヲ造出シ、之ヲ分配シ、
及ビ之ヲ交易スルノ法ハ、此二法相交ハルト
雖、其天法ニ屬スル者實ニ多シトス、
釋義第二、富トハ、他物ト交易シ得ベキ物、總テ
是レナリ、

人生必要ノ物ニシテ、富ニ非ザル物多シ、空氣
ハ、天下ノ最モ必要ナル物ナリ、若シ空氣ノケ
レバ、人立ドコロニ死スベシ、水モ亦甚ダ必要
ナル物ナリ、然レ、空氣ト水トハ、富ト稱スル
ヲ得ズ、何トナレバ、人々物ヲ以テ之ト交易ス
ルヲ要セザレバナリ、然リト雖、此二物モ、時
アリテハ、亦富トナルヲアリ、譬ヘバ、人ノ泳氣
鐘ニ水底ニ沈ミタル物品ヲ拾取シ、或ハ水底中
ニ在ル時、其呼吸スベキ空氣ヲ、機關ヨリ送下
セシメバ、之ガ爲メニ、多少酬フル所ナキ能ハ

設ケタル法ハ是レ人法ニシテ、幼童ノ漸次ニ
生長シテ、一個ノ男子、若クハ女子トナリ、後又
漸次ニ老衰シテ、終ニ死スルガ如キハ、是レ天
法ナリ、平蕨ノ樹上ヨリ落チ、地球ノ日ヲ繞リ
テ轉スル如キハ、是レ又天法ノ然ラシムル所
ナリ、今此書謂フ所ノ富ヲ造出シ、之ヲ分配シ、
及ビ之ヲ交易スルノ法ハ、此二法相交ハルト
雖モ、其天法ニ屬スル者實ニ多シトス、
釋義第二、富トハ、他物ト交易シ得ベキ物、總テ
是レナリ、

人生必要ノ物ニシテ、富ニ非ザル物多シ、空氣
ハ、天下ノ最モ必要ナル物ナリ、若シ空氣ナケ
レバ、人立ドコロニ死スベシ、水モ亦甚ダ必要
ナル物ナリ、然レモ、空氣ト水トハ、富ト稱スル
ヲ得ズ、何トナレバ、人々物ヲ以テ之ト交易ス
ルヲ要セザレバナリ、然リト雖モ、此二物モ、時
アリテハ、亦富トナルヲアリ、譬ヘバ、人ノ泳氣
鐘 水底ニ沈ミタル物品ヲ拾收シ、或ハ水底中
ニ在ル時、其呼吸スベキ空氣ヲ、機筒ヨリ送下
セシメバ、之ガ爲メニ、多少酬フル所ナキ能ハ

ズ、又沙漠中ニ於テハ、一瓶ノ水モ、其價頗ル貴
トキコトアリ、又時トシテ、水車ヲ旋ラス爲メ
ニ、流水ヲ使用スベキ權利ヲ得ントテ、之ガ報
酬ヲ爲スコトアリ、是等ノ事情ニ於テハ、空氣
及ビ水ハ富ナリ、何トナレバ、人々物ヲ以テ之
ト交易スレバナリ、
物ノ富ナルト否トヲ知ラント欲セバ、先ヅ其
物ヲ以テ、他物ニ交易スルヲ得ベキト否トヲ
考フベシ、他物ニ交易シ得ベキ物ハ、總テ是レ
富ナリ、

衣服、家屋、家具、貨幣、穀物、煉瓦、金剛石等ハ、富ニ
シテ、家具製造ノ技能、醫師ノ練熟等モ亦富ナ
リ、

釋義第三 物貨トハ、形體ヲ具ヘタル富ナリ、

上文ニ列載シタル諸物ハ、均レク富ナレバ、此
中ニ物貨ト稱スベキモノアリ、又然ラザルモ
ノアリ、

衣服、家屋、家具、貨幣、穀物、煉瓦、金剛石ハ物貨ナ
リ、何トナレバ、是等ノ物ハ、手ニ觸レ、眼ニ見ル
ベキ形體ヲ具ヘタルバナリ、

家具製造ノ技能、醫師ノ練熟ハ、無形ニシテ觸知スベカラズ、故ニ此等ハ富ナリト雖、凡物貨ニ非ズ、

釋義第四 財本トハ、節用蓄積ハ且ツ產物ヲ造リ出ス爲メニ用井ル所ハ富ナリ、此語最モ牢記セザル可カラズ、土地ハ富ナリト雖、凡財本ニ非ズ、何トナレバ、土地ハ收穫ノ爲メニ人ヲ用井レドモ、節用蓄積シタル者ニ非ザレ

バナリ、又貨幣十萬圓ヲ有チテ、之ヲ櫃中ニ鎖閉スレバ、是レ富ナリト雖、凡財本ニハ非ズ、何トナレバ、縱令、節用蓄積シタルモノナリト雖、未ダ他ノ富ヲ造リ出スニ用井ザレバナリ、工人ノ食物ハ財本ナリ、其用井ル所ノ器具モ亦財本ナリ、工人ノ勞銀ニ供スル貨幣モ亦然リトス、

土地ハ、空氣、水力、重力等ノ如ク、亦一ノ自然力ナリ、自然力ノ中ニテ、土地ハ最モ必要ナル者トス、

第一章

自然カ財本及ビ勞動ハ富ヲ造
リ出ス爲メハ三要件ナリトス

食用ノ蔬菜ヲ造リ出スニ當リテハ第一、自然カ
ナカル可カラズ、自然カトハ何ゾヤ、蔬菜ヲ産ス
ベキ土地、即チ是レナリ、第二、土地ヲ開キ、藩籬ヲ
圍ミ、土塊ヲ鋤キ、種子ヲ蒔キ、及ビ其作物ヲ收穫
スルノ勞動ナカル可カラズ、加フルニ、小麥ノ如
キハ、收穫レテ後、之ヲ磨キ、又之ヲ調製スルノ勞
動ナカル可カラズ、第三、耕作ニ用ヰル器具、播蒔

ニ供スル種子、及ビ衣食等ノ如キ財本ナカル可
カラズ、

又爰ニ人アリテ、其子ヲシテ醫術ヲ學バシムレ
バ、即チ醫術ノ富釋義第二ヲ參考スベシヲ造リ出ス者ニレ
テ、之ヲ造ルニモ亦自然カヲ要スベク、而シテ其
貴重ナルハ、殊ニ土地ニアリトス、何トナレバ、其
子ノ醫術練熟スルニ至ルマデ、其身ヲ養フ所ノ
食物ハ、多クハ土地ヨリ出レバナリ、又修業ノ間、
費ス所ノ衣食、及ビ家稅等ト、其師ニ酬フル謝銀
ハ、財本ニシテ、其襁褓ノ中ニ在リシ時ヨリ、愛養

教育ヲ忽ニセザル者ハ、是レ勞動ナリ、
又亞麻布ヲ造リ出スニハ、數類ノ自然カ相會ス
ルヲアリ、數類ノ自然カトハ何ゾヤ、曰ク、地トカ
ナリ、蓋シ地ハ、製造所ノ設アリ、且ツ亞麻ヲ産ス
ルノ土地ニシテ、其カハ、即チ風車ヲ轉ズル所ノ
風、水車ヲ運ラス所ノ水、或ハ甌水ヲ蒸汽ニ化セ
シムル所ノ熱等、是レナリ、我風ハ空氣ノ謂ニテ、
既ニ釋義ニ於テ示ス
ガ如ク、自然カノ一ニシテ、其初二當リテ、亞麻ヲ
培養シ、後ニ及ビテ、之ヲ紡績シ、之ヲ織成シ、若ク
ハ製造所ヲ建設シ、機械ヲ發明シ、或ハ職事ヲ管

理スル等ノ事ハ、即チ其勞動ニシテ、製造所、機械
等ヲ設ケタル費額ト、工人ニ與ヘタル勞銀、及ビ
費シタル亞麻トハ、是レ其財本ナリトス、
上ニ述ブル所ノ者、其造出ノ趣向ニ於テ、各相異
ナレドモ、自然カ、財本、勞動ノ三ツノ者アリテ、始
メテ富ヲ造リ出スヲ得、未ダ此三者ノ中一ヲ缺
テ、之ヲ造出スルノ例アルヲ見ズ、爰ニ一ノ法則
アリ、之ヲ百事ニ徴シテ、一毫モ違フ所ナケレバ、
取リテ眞ノ法則ト爲スベシ、即チ此三者結合ノ
如キ是レナリ、

是故ニ、自然カ、財本勞動ハ富ヲ造リ出ス爲メハ
三要件ナリトスト云ス

第二章

自然カハ、其量限リアレバ之ヲ富ト
謂ヒ、限リナキ者ハ之ヲ富ト謂ハズ

凡ソ物ニ於テ、其分量ノ限界ナケレバ、人得テ恣
ニ之ヲ用井ルベシ、譬ヘバ、人ノ空氣ニ於ル、皆各
自由ニ之ヲ呼吸スルヲ得、故ニ物ヲ以テ空氣ト
交易スル者ナシ、然レバ、若シ空氣ヲ主管スル者
アリテ、他人ヲシテ、自由ニ呼吸スルヲ得ザラシ

メバ、人各、其生命ヲ全クセンガ爲メ、物ヲ以テ空
氣ト交易スベシ、故ニ、若シ其分量ニ限界アレバ、
空氣モ亦富ナルベシ

人口多キ國土ニ於テハ、土地ノ境界正シクシテ、
尺寸ノ地モ、本主アラザルハナシ、故ニ尺寸ノ地
モ、得テ之ヲ恣ニスベカラズ、夫レ土地ハ、富ナレ
バ、尺寸ノ地ト雖モ、物ヲ以テ之ト易ヘザルベカ
ラズ、然レバ、人跡絶エテ稀ナル土地ニ在リテハ、
固ヨリ土地ノ量限リナシ、此ノ如キ地方ニハ、人
之ヲ要求スルヨリモ、更ニ廣大ナル土地アリ、又

北極地方ノ如キハ、彼此相類似セル島嶼、其數ヲ知ラズ、若シ人アリテ、其一ヲ有テ、之ヲ他物ト易ヘント欲スルモ得ベカラズ、何トナレバ、其近方ニ於テ、同一ノ島嶼ヲ領セント欲スル者ハ、一錢ヲモ費サズシテ、之ヲ得ベケレバナリ、水ノ物タル、常ニ其分量限リナント雖モ、若シ此ニ限界アレバ、水モ亦富ナルコト、前ニ舉ゲタル二例ヲ以テ見ルベシ、釋義第二ヲ見ヨ、此ノ如キ時ニ在リテハ、水モ亦他物ト換フルヲ得、故ニ其量限リアレバ、亦富タルヲ得ルナリ、

是故ニ、自然カハ、其量限リアレバ、之ヲ富ト謂ヒ、限リナキ者ハ、之ヲ富ト云ハズト云ス、

釋義第五 財本ハ、分チテ、固定、流通ハニツトナ

ス、

固定財本トハ、家屋、機械、器具、氷竇、溝渠、鐵道等ノ如キ者、是レナリ、流通財本トハ、勞銀ヲ償ヒ、或ハ原財ヲ買辦、亞麻布ヲ織ルニ亞麻ヲ買フガ如シ、スルガ如キ財本、是レナリ、固定財本ハ、其用ニ堪ルコト久シ、即チ此財本ニ由リテ、物貨ヲ製造スレバ、年々唯僅ニ其一部

分ヲ費スノミ、譬ヘバ、綿布ノ製造家アリテ、製造所、機械等ヲ備フレバ、此ニ由リテ、數十萬尺ノ綿布ヲ織製シ得ベシ、是ニ至リテ、其固定資本ハ、費スベケレドモ、之ヲ數十萬尺ノ綿布ニ配當スレバ、其一尺毎ニ、費エタル分ハ、僅少ナルベシ、
流通財本ハ、一タビ用井レバ消シ盡スベシ、譬ヘバ、三尺ノ綿布ヲ織レバ、其用ニ應ズベキ所ノ棉花ト、紡績スル所ノ勞動トハ、一旦ニ之ヲ消盡ス、故ニ、其一片ノ綿布ヲ賣ルニ當リテハ、

棉花ノ費銀、及ビ紡績ノ勞動ト、其製造ノ爲メニ費シタル、固定財本ノ一部分トヲ回復シ、且ツ若シ得ベクンバ、之ニ加フルニ、少許ノ利潤ヲ以テセザル可カラズ、

是故ニ、物産ヲ造リ出スニ費シタル、流通財本ノ全額ト、固定財本ノ一部分ハ、產物ノ價必ズ相償フベシ、

農夫ノ穀物ヲ賣リテ、其利潤ヲ得ルニハ、必ス種子ノ費銀ト、耕耨播蒔及ビ刈收ノ勞動ト、其他、藩籬、水竇等ノ諸費ヲ合セテ、之ヲ回復シ、且

ツ其餘得ル所ナカル可カラズ、
第三章

財本ハ其用法ニ由リテ或ハ多ク
流通ヲ要シ、或ハ多ク固定ヲ要ス、

爰ニ襯衣ノ製造家アリテ、許多ノ婦人ヲ雇ヒ、各
其家ニ於テ之ヲ裁縫セシム、然ル時ハ其財本ハ
悉ク流通財本ニシテ、勞銀ヲ與ヘ、鈕、鈕絲、布等ヲ
買フノ外、幾ンド別ニ財本ヲ要セズ、然レモ若シ
鉅大ナル製造所ヲ築キテ、機械ヲ備ヘ、以テ工人
ヲ雇役スレバ、其財本多クハ固定トナル、

鐵道會社ノ財本ハ多クハ固定ナリ、即チ鐵道ノ
横木、鐵條汽車ノ軌道ニ數ク所ノ鐵條皆同シ、汽車、
製車所及ビ停車場等、是レナリ、又石炭商賈ハ、其
財本ノ固定トナル者、甚ダ少ナシ、唯、僅カニ石炭
ノ貯場、數輛ノ貨車、及ビ狹少ナル鋪店ノミニシ
テ、其他專ラ用井ル所ノ者ハ、礦山ヨリ石炭ヲ購
買シ、之ヲ運輸シ、及ビ傭夫ニ酬フル等ノ費銀ナ
リ、

此外、何レノ職業ニ拘ハラズ、總テ上ノ如クニ、之
ヲ分疏スレバ、其用井ル所ノ財本ハ、固定流通ノ

ニツニ本ヅカザルハナシ、
是故ニ、財本ハ其用法ニ由リテ、或ハ多ク固定ヲ
要シ、或ハ多ク流通ヲ要スト云フ、

第四章

財本ハ、隨ヒテ費セ
バ、隨ヒテ復スベシ、

既ニ釋義第四ニ述ベシガ如ク、財本ノ財本タル
ハ、必ズ之ヲ用井ルニ在リ、若シ之ヲ用井ザシバ、
財本タルヲ得ズ、然レモ、既ニ之ヲ用井レバ、其物
必ズ盡滅スルモノナリトス、此理ハ、固定流通ノ

二財本ニ於テ、相異ナルヲナシ、譬ヘバ、三尺ノ綿
布ヲ製造スレバ、其用ニ應ジタル棉花ハ、復タ其
形狀ヲ存セズ、其工人ノ食ヒタル食物モ亦然リ、
是レ棉花ト食物ハ、流通財本ニシテ、其用ニ應ジ
タルハ、其物ノ盡滅シタルナリ、又固定財本タル
家屋ハ、其用一タビニテ、費盡セズト雖モ、亦漸ヲ
以テ破損ス、故ニ之ヲ用井レバ、絶エズ修理ヲ加
ヘザル可カラズ、修理ヲ加ヘザレバ、其末遂ニ壞
敗スベシ、

又耒耜ヲ用井テ、田圃ヲ掘レバ、多ク番薯ヲ採リ

得ベシ夫レ耒耜ハ固定財本タレバ之ヲ用井ル
毎ニ唯僅ニ消費スル所アリテ番薯ハ流通財本
タレバ一タビ之ヲ用井ル一アレバ全ク費盡ス
故ニ固定財本ハ之ヲ用井ル毎ニ僅ニ費エ流通
財本ハ用井ル毎ニ全ク費ル者ニシテ此ニ財本
ノ相異ナル所ハ唯其消費ノ緩急ニアルノミ
爰ニ三尺ノ綿布アリ其價製造ニ費シタル財本
ヨリモ低ケレバ財本ハ製造以前ヨリモ減少シ
若シ或ハ其價貴トケレバ製造ノ費銀ハ獨リ舊
ニ復セルノミナラズシテ財本ハ更ニ増益ヲ加

フベシ

夫レ財本ハ產物ヲ造リ出ス爲メニ用井釋義第
四ヲ見ヨ而シテ之ヲ用井レバ隨ヒテ盡滅スル
者ナリトスルトキハ之ヲ保存スルノ法獨リ其
盡滅スルニ從ヒ少クモ之ヲ回復スルニ足ルベ
キ產物ヲ造リ出スニ在ルヲ明ナリ
是故ニ財本ハ隨ヒテ費セバ隨ヒテ復スベシト
云ス

第五章

財本ハ勞動ヲ限定ス

富ヲ造リ出スニハ、必ず財本、勞動ノ二ツナカル
可カラズ、第一章ヲ見ユ故ニ、勞動ヲ要スルニハ、
必ず財本ヲ要スベクシテ、財本ヲ用井ルハ愈多
ケレバ、勞動ヲ役スルハ愈多キヲ得ベシ、即チ財
本ト勞動ノ二ツノ者、相備ハルニ非ザレバ、獨リ
財本ヲ恃ミテ富ヲ造リ出ス可カラズ、
然ルニ財本、勞動ヲ限定スト云ヒ、勞動、財本ヲ限
定スト謂ハザル者ハ、抑何ゾヤ、蓋シ財主タル者、
產物ヲ造リ出スニハ、先ヅ製造所、機械、器具、及ビ
其產物ノ原材ヲ備ヘ、而シテ後勞動ヲ要スルハ、

其常ニシテ、此ニ先チテ、更ニ勞動ヲ要セザレバ
ナリ、即チ財本ノ用ハ第一ニシテ、勞動ハ之ニ次
ギ、先ヅ財本ヲ用井ルニ非ザレバ、勞動ハ之ガ爲
メニ役ヒラレズ、是故ニ財本ハ、勞動ノ主ニシテ、
勞動ハ、之ガ使役ヲ受クル者ナリ、
又財本、勞動ヲ使役スルノ後、其作工全キニ至ル
マデハ、財本以テ之ニ支給セザルヲ得ズ、即チ財
主、傭工ノ造リ出シタル產物ヲ賣リ、而シテ其利
潤ヲ得ルニ至ルマデハ、其傭工ノ要用ナリトス
ル所ノ勞銀、衣食、居宅、等ヲ以テ、之ニ支給スル者、

是レナリ、

譬へバ、寶石ノ製造家ハ、適宜ノ工場ト、必要ノ器具ヲ備ヘンガ爲メニ、先ヅ其財本ヲ費シ、次ニ采飾ニ用井ル金銀、其他ノ材料ヲ購求シ、而シテ後勞動ヲ使役ス、然レモ其勞動ノ多寡ハ、必ズ工場ノ廣狹、器具ノ多寡、金銀其他材料ノ量數ニ係リ、而シテ工場其他一切ノ準備ハ、其原亦財本ノ額數ニ係ルベシ、加フルニ、財主ハ、其製造ノ間ニ、買客ヨリ、多少ノ金錢ヲ得ルヲナキモ、其使役スル所ノ工人ニハ、必ズ衣食ヲ支給セザルヲ得ズ、衣

食ヲ支給スルニハ、必ズ財本ナキヲ得ズ、○是故ニ財本ハ勞動ヲ使役シ、且ツ之ニ支給スル者ナルヲ以テ、財本ハ勞動ヲ限定スト云フ、

釋義第六 需要トハ、現ニ交易スベキ物貨ヲ有テル者之ヲ以テ其好ム所ノ物貨ヲ買ハント欲スルハ願ナリ、

釋義第七 供給トハ、現ニ有ツ所ノ物貨ヲ以テ之ヲ他人ニ賣ラント欲スルハ願ナリ、
譬へバ綿布ノ需要ト謂ハ、人之ヲ買ヒ得ベギ所ノ貨幣或ハ他ノ物品ヲ現有シテ此ヲ以

テ彼ニ換ヘント欲スルヲ云フ故ニ若シ貨幣
或ハ交易スベキ物品ヲ現有セザレバ其人強
テ綿布ヲ得ント欲スルトモ、經濟學ニ於テ之
ヲ論ズレバ、實ニ綿布ヲ需要スル者ニ非ズ、
又綿布ノ供給ト謂ハズ、人綿布ヲ領有シ、而シ
テ其好ム所ノ貨幣、或ハ他ノ物品ト交易シテ、
之ヲ他人ニ譲ラント欲スルヲ云フナリ、

第六章

供給需要ニ過レバ其價隨ヒテ低下シ、
需要供給ニ過レバ其價隨ヒテ騰貴ス、

爰ニ物アリ、其供給ノ多キヲ需要ニ過レバ、之ヲ
商フ者、各其物貨ノ賣レ難キヲ恐レ、其價ヲ低下
シ、以テ買客ヲ己ノ家ニ招クベシ、同業ノ商估、皆
相競ヒテ、此ノ如クセバ、其物貨ノ通價ハ、必ズ低
下スベシ、譬ヘバ、需ヲ需要スル者九人アリテ、其
供給ノ品十把アレバ、之ヲ商フ者、各其一把ノ滯
貨タラシヲ恐レ、低價ヲ以テ之ヲ賣ルベシ、同
商ノ者、此ノ如ク相競ヘバ、其價益低下シテ止ム、
故ヲ以テ、產物ノ饒多ナルト、價值ノ廉下ナルト
ハ、相倚リテ相離レザルモノナリ、

若レ或ハ、需要ノ多キヲ供給ニ過レバ、買者ハ、其物ヲバ、他人ニ買ヒ盡サレテ之ヲ己ニ求ムルヲ能ハザランヲ恐レ、他人ヨリモ高價ヲ出シテ、其物ヲ買フベシ、買フ者皆此ノ如クナレバ、其通價ハ騰貴スルニ至ラン、譬ヘバ、馬ヲ買ハント欲スル者五人アリテ、馬四匹アレバ、五人ノ者ハ、各競ヒテ不當ノ價銀ヲ出スヘシ、故ニ五人ノ中、最も高ク買フ者ハ、各一頭ヲ求メ得ベシ、又、ヲ以テ、產物ノ稀少ナルトハ、猶ホ物貨ノ高價ナルト云フガ如シ、

上ニ述ブル所ハ、以テ需要供給ノ第一則ヲ證スベシ、即チ供給需要ニ過レバ、其價隨ヒテ低下シ、需要供給ニ過レバ、其價隨ヒテ騰貴スルヲ知ルベキナリ、

第七章

物ハ需要盛ナレバ、其供給モ亦盛ニ
イテ、終ニ平價ヲ得ルニ至リテ止ム、

凡ソ物需要ニ過ヘバ、其財主タル者、財本ヲ費シテ之ヲ供給スベシ、而シテ之ガ爲メニ大ニ利潤ヲ得レバ、他ノ財主モ、亦其製造ヲ始ムベシ、此ノ

如ク相競フニ至リテハ、其物貨ノ價必ズ低下スベシ、第六章ヲ見ヨ、但シ、一時臨機ノ賣買ヲ除ク外、其低下必ズ平價ノ下ニ降ラズ、平價トハ、製造ノ爲メニ費シタル、自然力、財本、及ビ勞動ニ酬フベキ、至當ノ價值、即チ是レナリ、若シ此價值ノ外ニ低下スレバ、製造スル者、皆財本ヲ此ニ用井ルヲ止メ、而シテ其製造物ハ、隨ヒテ亦減少シ、結局物貨ノ稀少ナルガ爲メニ、其價復タ騰貴スルニ至ルベシ、第六章ヲ見ヨ、

千八百六十九年ニ當リ、我合衆國ニ於テ、自轉車

大ニ行ハレ、幼童壯者トモ、之ヲ需要スルヲ甚ダ盛ナリシコトアリ、其初ハ需要ノ多キヲ供給ニ過ギシヲ以テ、其價頗ル貴トカリシガ、其後供給ノ隨ヒテ生ズルニヨリテ、價モ亦隨ヒテ低下シ、後終ニ之ヲ需要スル者ナキニ及ビテ、其製造モ絶エテ止ミタリ、然レモ製造家ニ在リテハ、既ニ許多ノ製品ヲ有チシニヨリ、一時至廉ノ價ヲ以テ、之ヲ賣去セシガ、現今ニ在リテハ、自轉車ノ需要又少シク増殖ス、故ニ、至當ノ價ニテ之ヲ購買スルヲ得ベシ、

古人ノ描キタル圖畫ノ如ク、其個數ノ定限アル者ハ、幾許ノ財本、勞動ヲ費ストモ、其供給ヲ増シ得ベカラズ、故ニ、需要盛ナリト雖モ、至當ノ價ニテ之ヲ供給スルヲ得ズ、然レモ、凡百ノ物、其分量ノ多寡ニ論ナク、之ヲ供給レ得ベキ者ニ至リテハ、既ニ上ニ述ベタルガ如シ、是レ需要供給ノ第一則ナリ、即チ物ノ需要盛ナレバ、其供給モ亦盛ニシテ、終ニ平價ヲ得ルニ至リテ止ムト云フ是レナリ、

釋義第八、消費ニ有用ト無用ト別アリ、

凡ソ消費シテ、產物ヲ増加スベキモノハ、即チ有用ノ消費ナリ、譬ヘバ、勞動スル所ノ工人ニシテ、其必要ナル食物ヲ費ス者ハ、有用ノ消費ナリ、又鐵ヲ溶解シテ、他日ノ用ニ應ズベキ鐵條ヲ造レバ、其溶解シタル所ノ鐵ハ、有用ノ消費ナリ、又磚ヲ用井テ、田圃ニ水竇ヲ鑿ツモ、同じク然リトス、若シ或ハ、消費シテ、產物ヲ増加セザルモノハ、即チ無用ノ消費ナリ、譬ヘバ、嬾夫ノ費シタル、衣服、食物ノ如キ、是レナリ、又勞動スル所ノ工人アリ、毎一日、一斤ノ食物ヲ以

テ、要用ナル分量トナセシニ、若シ毎一日、一斤半ヲ費セバ、其餘分ノ半斤ハ、無用ノ消費ナリ、或ハ鐵ヲ鎔シテ、空シク之ヲ棄ツレバ、其鐵ハ、無用ニ消費シタルナリ、絹帛、天鵝絨等ノ如キハ、多クハ無用ノ消費ニシテ、煙草モ亦然リトス、

第八章

有用ハ消費ハ、

勞動ニ利アリ、

有用ノ消費ハ、產物ヲ増加スルノ益アリ、產物ヲ

増加スル者ハ、富ヲ殖スルノ益アリ、而シテ富ヲ殖スル愈多ケレバ、財本ヲ用非ル亦愈多シ、財本ヲ用非ル愈多ケレバ、之ニ應ズベキ所ノ勞動モ亦愈多シ、第五章ヲ見ユ、即チ有用ノ消費ハ、勞動ヲシテ愈多カラシム、是故ニ、有用ハ消費ハ、勞動ニ利アリト云フ、

第九章

無用ハ消費ハ、

勞動ニ害アリ、

若シ物ヲ消費シテ、產物ヲ増加スルノ益ナケレ

バ、國內ノ富ハ、其消費シタルダケ減シタルナリ、
譬ヘバ、一邑ニ一千人アリテ、各其要用ナル食料
ノ外更ニ四半斤ノ一分多キヲ費セバ、其食料
ノ無益ニ減ズル總高、毎一日、二百五十斤ナリ、又
人アリテ、食料ノ爲メニ、一年毎ニ、二百五十圓ヲ
消費シ、其中五分ノ一、即チ五十圓ハ、不急ノ驕奢
ニ屬スルトキ、其人若シ此冗費ヲ省カバ、初メ其
五十圓ノ食物ヲ造リタル財本、并ニ勞動ハ之ヲ
轉シテ、他ノ物貨ヲ造リ出スニ用井、即チ需要ニ
於テ、必要ナル靴履ノ如キ者ヲ造リ得ベシ、又其

消費ヲ戒メタル人ハ、毎五十圓ヲ貯蓄シテ、書籍
出版ノ爲メニ之ヲ用井レバ、其消費ヲ省キタル
効驗アリテ、要用ナル靴履ト書籍ハ、前日ヨリモ
國中ニ多カルベシ、此時ニ當リテ、食物ノ價ハ、猶
ホ前日ニ異ナルヲナカルベシ、是レ他ナシ、其需
要ニ從ヒテ、供給モ亦減少シタルバナリ、又靴履
ト書籍ノ價ハ、前日ヨリモ低下セシナルベシ、是
レ亦其供給ノ増加セシニ由リテナリ、無用ノ消
費未ダ止マザルノ前ニハ、其餘分ニ費セル食物
ヲ造リ出スガ爲メニ、勞動ニ費シタル一般ノ財

本アリシナリ、其消費ノ止ムニ至リテモ、其財本ハ猶ホ依然トシテ存スレドモ、今ハ靴履ヲ造リ出ス爲メノ財本トナリ、而シテ又更ニ一股ノ財本ヲ生出セリ、書籍出版ノ財本是レナリ、即チ此消費ノ未ダ止マザル以前ニハ、労働ニ充ツベキ財本ハ僅ニ一股ナリシガ、其既ニ止ミタルノ後ニ當リテハ、更ニ一股ノ財本ヲ増セシナリ、故ニ無用ノ消費ヲ省略セバ、労働ヲ利便スル者ナリ、是故ニ、無用ノ消費ハ、労働ニ害アリト云フ、

第十章

分業スレバ、労働ハ効驗更ニ多シ

爰ニ農夫アリテ、其耕作シタル小麥ヲ收納スルヨリ、之ヲ磨車ニ運ビ、之ヲ磨キ其粉ヲ擔ヒテ都會ニ到リ、又之ヲ以テ麵包ヲ製シ、且ツ之ヲ荷ヒテ市頭ニ販グマデ、皆之ヲ自ラセバ、徒ラニ勞力ト時日ヲ費スベシ、是レ他ナシ、農夫ハ獨リ耕作ノ法ヲ知り、農具ヲ有スルノミニシテ、磨車ノ用方、運送ノ方法、又麵包ノ製方等ヲ知ラズ、且ツ其製造機械ヲ有タザルヲ以テナリ、故ニ農夫ノ勞

動ハ、專ラ農業ニ用井ルヲ以テ、最モ宜シトス、若シ此農夫、一日ハ農夫トナリ、一日ハ磨匠トナリ、一日ハ擔夫トナリ、一日ハ鋸匠トナリ、又一日ハ行商トナル時ハ、五日間ニシテ得ル所ノ者、僅ニ金五圓ナルベシ、然レバ、若シ其勞動ヲ農業ニ專ラニセバ、此ニ由リテ得ル所ノ者、二三倍ノ多キヲ加ヘシ、且ツ農業ヲ專ラニセバ、唯一具ノ農器ヲ備ヘテ、餘リアリトス、又日、ニ之ヲ使用スルガ爲メニ、其財本ナル農器モ死物タラズ、若シ夫レ然ラズシテ、以上ノ五業ヲ一身ニ兼ル時ハ、五具

ノ器械ヲ備ヘザルヲ得ズ、且ツ一業ヲナス間ニ當リテ、他ノ四業ニ於ル器械ハ、毎ニ死物タラザルヲ得ズ、是故ニ人其業ヲ分テバ、善ク財本ヲ用井、且ツ善ク勞動ヲナシ得ベシ、

此事一業ノ中ニ於テモ亦然リトス、乃チ經濟學者ノ始祖、アダム・スミスノ説キタル一例ヲ引テ、之ヲ左ニ示スベシ、

蠟眼針製造ノ作エハ、幾ンド之ヲ十八課ニ分チ、鐵線ヲ引延スヲ以テ、一人ノ課業トシ、其線ヲ直ニスルヲ以テ、一人ノ課業トシ、第三ノ人ハ之ヲ

切り、第四ハ之ヲ尖ラシ、第五ハ、上端ニ粒ヲ附スルガ爲メニ、其端ヲ研ク、其粒ヲ造ルノ業モ、之ヲ二課或ハ三課ニ分チ、粒ヲ以テ、針ノ上端ニ加フルヲモ、其一課ニシテ、針ヲ磨シ、且ツ之ヲ紙ニ挿スモ、亦各、一課ナリ、予嘗テ蠶眼針製造所ニ到リテ、一覽セシヲアリシガ、此製造所ハ、甚ダ寒微ニシテ、唯、十名ノ工人ヲ雇役セルヲ以テ、或ハ一人ニシテ、二三課ヲ兼ネタル者アリ、且ツ其機械モ、十分ニ整備セズ、然レテ、工人勉強シテ、其職事ヲナス時ハ、一日ニ蠶眼針十二斤ヲ造リ得ベシ、而

シテ其針ハ中等ノ大サニテ、重量一斤毎ニ、其員數四千個餘ナリ、故ニ一人ノ造ル所、其數四萬八千ノ十分一ナリトセバ、一人毎ニ、一日ニ造リタル數四千八百個ナリ、若シ十名ノ工人、其課業ヲ分チテ、習ヒ得レ所ノ長技モナク、各個獨立シテ針ヲ造ラントセバ、一人ニテ、一日ニ二千個ノ針ヲ造ルヲ、實ニ難カルベク、或ハ一個ヲモ造リ得ベカラズト云ヘリ、
分業スレバ、労働ノ効驗更ニ多キ所以ノ者ハ、其理五ツアリ、左ノ如シ、

第一、凡ソ工人ハ、何業ニ係ハラズ、數個ノ事ニ當リテ、纔ニ兩三度之ヲナスヨリモ、一事ニ當リテ、之ヲ數スレバ、大ニ練熟スベシ、譬ヘバ、鐵工ノ鍛冶ヲナス者、半週間鍛冶ヲナシ、又半週間他ノ職業ヲナスヨリモ、日々其業ニ從事スレバ、大ニ練熟スルヲ得ベシ、

第二、一ノ作エヲ止メテ、他ノ職事ニ遷ルトキハ、空シク時間ヲ費シ、業ヲ分テバ、其空費ヲ省クベシ、譬ヘバ、蟹眼針ヲ造ル時、鐵線ヲ直ニスル者ニシテ、又兼ネテ其線ヲ切ルトキハ、其初二當リ

テ、使用シタル器具ヲ放チテ、他ノ器具ヲ取リ、且ツ居坐ヲ轉ズルノ煩アルベシ、此ノ如クナル時ハ、其間費ス所ノ寸刻モ、一年ハ中ニハ、積モリテ數日トナルベシ、

第三、若シ分業ノ法其正ヲ得レバ、終日使用セザルノ間具ナカルベシ、其故ハ、前例ニ於ルガ如ク、一人ニシテ二業ヲ兼レバ、鐵線ヲ切ル間、之ヲ直ニスル器具ハ贅物トナリ、二人其エヲ分チテ、各之ヲ專ラニスレバ、二具トモニ、常ニ活用スルヲ得ベシ、

第四、業ヲ分ツニ於テハ、其成シ易キ者ハ、之ヲ幼童婦女ニ課シ、其成シ難キ者ハ、之ヲ強壯ノ人ニ課シ得ベシ、然スレバ、男女ノ別ナク、皆其力ニ應ジテ、使役スルヲ得ベキナリ、

第五、意ヲ數個ノ事業ニ用井ニヨリハ、意ヲ一事ニ留メテ、新規ノ良法ヲ發明シ易キニ、如カズ是故ニ、總テ職業ハ、其細分ニ過ギテ、却テ傭工ノ手ニ空閑ヲ生ズルマデハ、勉メテ之ヲ分ツヲ益アリトス、但傭工ニ在リテハ、分業ノ爲メニ不利ナルヲニツアリ、其爲ス所、一事ニ止マレバ、倦ミ

テ快適ナラザル、其一ナリ、獨リ些末ノ細技ノミニ練熟スルヲ以テ、若シ、雇役ヲ廢停セラル、コトアレバ、更ニ職ヲ覓ルヲ難キ、即チ其ニナリ、然レハ、此ノ如キ小ナル不利ハ、大ニ雇主ノ職業ヲ妨グルモノニアラズ、之ヲ其利益ノ大ナルニ比スレバ、其相距ルヲ甚ダ遠シトス、是故ニ、分業スレバ、勞動ハ、効驗更ニ多シト云ス、釋義第九、財本ノ中、勞動ニ酬ハベキ部分ハ、之ヲ名ケテ、勞銀元手ト云フ、
勞銀元手ヲ分チテ、實算可當ノニツトナス、實

算勞銀元手トハ、勞銀トナシテ、現實ニ費用スル財本ナリ、可當勞銀元手トハ、勞銀トナシテ、費用スルモ可ナルモノナリ、ハ、我民俗ニイハユル賃銀ニ充テタル元手ニシテ、現實備エニ拂フベキ元手ナリ、又可當勞銀元手ハ、利潤ノ中ヨリ取リテ、賃銀ニ當ツ可キ分ナリト知ルベシ、下ノ例ニテ、十一萬圓ヲ以テ可當勞銀元手ナリト云フ者ハ、十一萬圓ニ至ルマデハ、賃銀ニ當テ、費用シ得ベキ高ト云フ意ニテ、實算ト増加ノ分トヲ合セテ斯クイフナリ、猶十六章ヲ參考スベシ、

譬ヘバ、爰ニ一個ノ製造家アリ、其一歳ノ計算ヲ立ルニ、勞銀十萬圓ト見込ミ、猶ホ二萬五千圓ノ利潤アラシ時、財主ノ生計ハ、一萬五千圓

ニテ事足ラバ、其餘分ノ一萬圓ハ、徒ラニ之ヲ貯藏センヨリモ、右ノ十萬圓ニ加ヘテ十一萬圓ト爲シ、其ニ勞銀ニ費用スルモ、支障ナキコトアルベシ、然ルトキハ、實算勞銀元手ハ、十萬圓ニシテ、可當勞銀元手ハ、別ニ十萬圓ノ十分一ヲ加ヘテ、十一萬圓ト爲スノ類、是レナリ、實算勞銀元手ハ、必ズ可當勞銀元手ノ上ニ出デズ、却テ其數ニ及バザルコト屢フレアリ、故ニ傭エタル者、事理ニ通ゼズ、又ハ結黨シテ、財主ニ逼ル等ノコトナクバ、其費用スルモ、支障ナ

キ金額ヲ悉シテ、勞銀ニ充テシムルコト能ハ
ザルコトアリ、

第十一章

可當勞銀元手ハ產物
ハ多寡ニ由テ増減ス

若シ產物増益スレバ、可當勞銀元手モ、隨ヒテ増
益シ、產物減少スレバ、又隨ヒテ減少スル者ナリ、
○夫レ勞銀元手ハ、財主、其財本ノ中ヨリ、勞動ノ
報酬ニ充テント欲スル所ノ額數ヨリ多キナ
シ、若シ之ニ超レバ、財主、復タ其財本ヲ其事ニ用

井ザレバナリ、然レモ、財主ノ費シタル勞銀ハ、產
物ヲ賣リ、以テ之ヲ償フ者ナルニヨリ、產物ノ價
愈貴トケレバ、財主ハ、愈多ク勞銀ヲ出シテ、勞動
ニ酬フベシ、故ニ、產物ノ價愈増加スレバ、可當勞
銀元手ハ、愈増加シ、若シ其價愈減少スレバ、其元
手モ愈減少スベシ、譬ヘバ、小刀ノ製造家アリ、工
人ヲ雇ヒテ、其勞銀一圓ヲ與フ、此工人、一日ニ就
テ、每一個、一圓ニ價スベキ小刀、二個ヲ作レリ、其
價ハ即チ二圓ナリ、若シ、工人更ニ能ク勉強注意
シテ、日々二圓五十錢ノ小刀ヲ造リ出セバ、其價

ノ前日ヨリ多キヲ以テ、財主ハ更ニ勞銀ヲ加ヘテ其勞ニ酬フベシ、然レモ若シ怠リテ心ヲ作工ニ留メズ、且ツ日々造リ出ス所ノ小刀、其價僅ニ一圓五十錢ニ止マレバ、雇主ハ前日ノ如ク其勞銀ヲ與フルヲ甘ンゼズ、却テ之ヲ減ズベシ、是故ニ、可當勞銀元手ハ產物ハ多寡ニ由リテ増減スト云フ、

第十二章

實算勞銀元手ハ増減ハ、需要供給ハ第一則ニ隨ヒテ變ズ、

勞銀ハ、勞動ニ酬フル代價ナリ、凡ソ代價ハ、需要ト供給ノ多寡ニ關カルモノニシテ、需要供給ニ過レバ、其價隨ヒテ騰貴シ供給需要ニ過レバ、其價隨ヒテ低下スルコト、既ニ第六章ニ述べタルガ如シ、今夫レ、世間ニ其蓄財ヲ以テ、雇傭ヲ役セント欲スルモノアルハ、即チ勞動ノ需要ニシテ、男女老少カヲ致シ、以テ口糧ヲ得ント欲スルモノアルハ、是レ勞動ノ供給ナリ、而シテ勞銀ノ高低ハ、專ラ此需要ト供給ノ多寡ニ關係スルモノナリ、

若シ財。本。匱少ニシテ、勞動ヲ致ス者數多ナレバ、
募ル所ノ勞銀低シト雖、皆相競ヒテ雇役セラ
レンコヲ求メ、徒ラニ坐食センヨリハ、僅少ナル
勞銀ニテモ厭ハザルベシ、故ニ勞銀ハ自ラ低下
ス、若シ或ハ、財。本。餘リアリテ、勞動ヲ致ス者少ナ
ケレバ、財主相競ヒテ雇役センコヲ求メ、徒ラニ
財。本。ヲ有タンヨリハ、勞銀高シト雖、コレガタ
メニ費用スベシ、故ニ勞銀ハ自ラ騰貴ス、
工人職事ニ練熟シ、其品行モ正シクシテ、信任ス
スルニ足ルベケレバ、其勞銀必ズ貴トシ、是レ他

ナシ、此ノ如キモノハ、其需要ノ多キコト、供給ニ
過レバナリ、

嘗テ加拿他ニ於テ、グラントロンクナル鐵道
ヲ築造セシトキ、泥工ヲ英吉利ヨリ招キタリ、此
工人ハ、英吉利ニ於テハ、一日ノ勞銀五シリング
グニ十三錢ニ當ル、我ナリシガ、加拿他ニテハ、一
日七シリング半ヲ得タリ、而シテ工人活計ノ
費銀、加拿他ニ在ルモ、猶ホ英吉利ニ於ルト、差異
アルコトナシ、然ルニ、其勞銀ノ英吉利ニ於ルヨ
リ、ニシリング半高カリシハ、其故他ナシ、加拿

他ニ於テハ、泥工ノ需要多キヲ供給ニ過ギシヲ以テナリ、

是故ニ、實算勞銀元手ハ増減ハ、需要供給ハ第一則ニ隨ヒテ變ズト云ス

第十三章

職業ハ好ムベキハ勞銀低ク

厭フベキハ勞銀高シ

職業ハ學ビ易キハ勞銀低ク

學ビ難キハ勞銀高シ

職業ハ定リアルハ勞銀低ク

定リナキハ勞銀高シ

人ノ職業ヲ擇ムヤ、或ハ快適ノ事ヲ好ミ、或ハ學
ビ易キ事ヲ取り、或ハ其閑劇一定ナルヲ好ム
ハ、必然ニシテ、斯ル職業ハ、其勞動ノ供給多ク、苦
シ之ニ反シテ、或ハ厭フベク、或ハ學ビ難ク、或ハ
定リナキ者ハ、其供給必ズ少ナシ、故ニ、其供給ハ
需要ニ應ズルニ足ラズシテ、勞銀モ亦隨ヒテ高
シ、第十二章ヲ見ヨ、譬ハバ、掃街者ハ其動作厭フ
ベキニ由リテ、其勞銀高ク、彫刻師ハ、刻苦シテ、其
業ヲ學ビ得タルニ由リテ、其勞銀亦高シ、此外鉛

工 鈔管ヲ製ノ如キハ、閑忙一ナラズシテ、其動作
スル職工ノ如キハ、閑忙一ナラズシテ、其動作
定リナキガ故ニ、其勞銀高キ者ナリトス、
是故ニ、職業ハ好ムベキハ、勞銀低ク、厭フベキハ
勞銀高シ、職業ハ學ビ易キハ、勞銀低ク、學ビ難キ
ハ、勞銀高シ、職業ハ定リアルハ、勞銀低ク、定リナ
キハ、勞銀高シト云ス、

第十四章

傭工ノ數ニテ、勞銀元手ヲ除
セバ、即チ勞銀ノ平均數ヲ得

日々五十人ヲ雇ヒテ、其勞銀一百圓ヲ與フレバ、

平均二圓ノ勞銀ニシテ、其二圓ハ、即チ傭工ノ數
五十ニテ、勞銀元手百圓ヲ除シテ得タル所ノ商
ナリ、然レバ、一個ノ財主ノ勞銀元手ナルモ、或ハ
一國ノ勞銀元手ナルモ、若クハ日給或ハ年給ナ
ルモ、又數十圓ナラズシテ、數千萬圓ナルモ、或ハ
數十人ナラズシテ、數千萬人ノ傭工ナルモ、勞銀
ノ平均額ヲ得ルノ方法ハ、猶ホ差異アルナリ
實算勞銀元手ハ、傭工ニ與スベキ實額ナルガ故
ニ、釋義第九ヲ見ヨ、各傭工ニ與ヘタル勞銀ノ平
均額ハ、傭工ノ全數ニテ、全勞銀元手ヲ除シ、以テ

其得タル所ノ數ニ等シカラザルヲ得ズ、
是故ニ傭工ハ數ニテ勞銀元手ヲ除セバ、即チ勞
銀ハ平均數ヲ得ルト云ス、

第十五章

買取スルカヲ比較セバ、勞

銀ハ高低ヲ辨識シ得ベシ、

爰ニ甲乙ノ傭工アリテ、甲ノ勞銀、乙ノ勞銀ヨリ
モ、多ク物貨ヲ買ヒ得レバ、甲ノ勞銀ハ、乙ノ勞銀
ヨリ高キナリ、譬ヘバ、甲ハ、^{ニユーヨーク}新約克ニ於テ、一日三
圓ヲ得、乙ハ、カリフォルニアニ於テ、四圓ヲ得シニ、

カリフォルニアニ於ル衣食住ノ費銀ハ、其高キヲ、

新約克ノ二倍ナリトスレバ、カリフォルニアニテ、

率ハ、^{ニユーヨーク}新約克ノ物ヲ、新約克ニテハ、三圓ニテ買

ヒ得ベシ、故ニ乙ノ一日半^{此勞銀ニテ買ヒ得ベ}

キ物ヲ、甲ハ一日ニテ買フヲ得、然ル時ハ、甲ノ得

ル所乙ヨリ少キヲ、一日一圓ナレドモ、乙ニ比ス

レバ、其勞銀ハ高キナリ、

又英吉利ノ木エナル甲ハ、英吉利ニ於テ、一日一

圓ヲ得、亞米利加ノ木エナル乙ハ、亞米利加ニ於

テ、一日二圓ヲ得、而シテ衣服一具ノ價英吉利ニ

テハ六圓亞米利加ニテハ十五圓ナリト定メン
ニ、若シ之ヲ買フノ上ヨリ計算スレバ、甲ノ勞銀
ハ、乙ノ勞銀ヨリ高カレ、即チ甲ハ、唯六日ノ勞ヲ
致シテ、一具ノ衣服ヲ得ベクレドモ、乙ハ、七日半
ノ勞ヲ致サバ、レバ、之ヲ得ベカラズ、其他、英吉利
ニテ、必用ナル物資ノ價、總テ衣服ノ如ク、廉下ナ
レバ、甲ノ勞銀ハ、獨リ貨幣ヲ以テ算スルノ外、他
ノ百事ニ於テ、乙ノ勞銀ヨリ高キナリ、勞銀ヲ比
較スルニハ、先ツ傭工ノ勞銀幾許ト、其勞銀モテ、
幾許ノ物ヲ買ヒ得ベキトヲ知ラザルベカラズ、

凡ソ勞銀ノ多寡ニ拘ハラズ、其勞銀モテ、多ク物
ヲ買ヒ得ル者ハ、其實高キ勞銀ヲ得ル者ナリ、
是故ニ、買取スルカラ、比較セバ、勞銀ノ高低ヲ辨
識シ得ベシト云フ、

第十六章

勞銀元手ヲ増加シ、或ハ傭工
ヲ減ズルニアラザレバ、勞銀
ヲシテ貴カラシムルヲ得ズ、

勞銀ノ平均數ハ、傭工ノ數ニテ、實算勞銀元手ヲ
除シテ、得タル所ノ商數ナリ、第十四章ヲ見ヨ、然

レバ、其商^{勞銀ノ}平均額^ヲ増サントスレバ、其實^{勞銀ノ}元手^ヲ増スカ、或ハ法^{備エ}ノ數^ヲ減ズルニ非ザレバ能ハズ、而シテ實^ノ額數^ヲ増スニ四樣アリ、左ノ如シ、第一、若シ、可[○]當[○]勞[○]銀[○]元[○]手[○]ト、實[○]算[○]勞[○]銀[○]元[○]手[○]ト、其額數相同ジキ時、傭工勉強ヲ加フレバ、其造リ出ス所ノ產物ヲ、増加スルヲ得ベシ、產物増加スレバ、可[○]當[○]勞[○]銀[○]元[○]手[○]モ、亦多キヲ得ベシ、^{釋義第九ヲ參考スベシ、}可[○]當[○]勞[○]銀[○]元[○]手[○]多キヲ得レバ、傭工、勞銀ノ増加ヲ雇主ニ勸メ、或ハ結黨シテ、之ニ迫ルヲ得ベシ、譬ヘバ農夫アリ、其傭工ノ勞ニ酬フルニ、年々收穫

ノ十分ノ四ヲ分ツベシ、之ヲ價銀ニシテ、收穫一百圓ナレバ、傭工ノ得ル所ハ、四十圓ナリトス、而シテ若シ其價二百圓ニ登ル時ハ、農夫ノ可[○]當[○]勞[○]銀[○]元[○]手[○]ハ八十圓ニ上ラン、然ラバ、傭工ハ、農夫ニ向ヒ、其増シタル利潤ノ分配ヲ請フベキ理アリ、然ルニ、此ニ至リテ、雇主尚ホ之ヲ肯ンゼザレバ傭工ハ、雇主ノ爲メニ、勞動スルヲ拒ミ、且ツ強迫シテ可ナリ、但シ、此時別ニ傭工アリテ低キ勞銀ニテ、勞ヲ致サンコトヲ甘ンゼバ、強迫ノ術ニ出ヅルヲ得ズ、故ニ、此一策ハ、第十九章ニ述ベタル

ガ如ク、傭工ニ在リテ頗ブル危シトス、

第二、若シ、可當勞銀元手ノ額多クシテ、實算勞銀元手ノ額少ナキ時ハ、傭工ハ或ハ懇請シ、或ハ強迫シテ、其額ヲシテ相齊シカラシムルヲ得ベシ、

第三、傭工ノ買フベキ物價ヲシテ、廉下ナラシムルヲ得レバ、第十五章ヲ見ヨ、實算勞銀元手、可當勞銀元手、共ニ増加スルヲ得ベシ、

第四、若シ、傭工或ハ何人ニ論ナク、無用ノ消費ヲ戒メテ、其得益ヲ蓄フレバ、即チ國ノ富ヲ増加

スルヲ以テ、財本及ビ勞銀モ、亦隨ヒテ増加スベシ、概算スルニ、其蓄ヘタル得益ヲ以テ、之ヲ銀行ニ寄托シ、而シテ財本ヲ要スル人ニ、之ヲ貸シ與フルトキハ、凡ソ一千圓毎ニ、一人ノ傭工ヲ増殖スルヲ得ベシト云ス、

之ヲ要スルニ實_{實算}勞銀ヲ増スハ、法_{傭工}ノ數ヲ減ズルヨリ、最モ勝レル者ニシテ、法ヲ減ズルハ、必ズシモ常ニ商ヲ増サズ、何トナレバ、法ノ減ズルニ隨ヒ、實モ亦減ズルヲアレバナリ、譬ヘバ、勞銀元手十圓アリテ、之ヲ傭工五人ニ分ナシトキ、若シ、此

中一人死去スルカ、或ハ懶惰ニテ缺員スレバ、其元手十圓ノ中、二圓ハ、勞銀元手ノ中ヨリ減ジ、四人ノ勞銀ハ、猶ホ前日ニ等シキコトアルベシ、即チ五人ニテ十圓ヲ得ルトキハ、每一人二圓ナリシニ、今四人ニテ八圓ヲ得レバ、同ジク、每一人二圓ナルノミ、

此傭工ノ數ノ減少シタルガ爲メニ、勞銀ノ増サミル所以、ニツアリ左ノ如シ、

第一 財本ハ、勞動ノ援助アラザレバ、一物ヲモ造リ出スヲ能ハズ、第五章ヲ見ヨ故ニ勞動減少

スレバ、產物ヲ造り出スガ爲メニ、其財本大ニ餘分ヲ生ズベキニ由リ、財本モ亦減少スベク、財本既ニ減ズレバ、勞銀元手モ亦隨ヒテ減ゼザルヲ得ズ、然ルニ、此實ノ減少、獨リ法ノ減少ト、相平均スルニ止ラズ、時ニ或ハ之ニ超ルコトアリ、若シ其相平均スルニ止マル時ハ、上ニ例スルガ如ク、勞銀ハ、依然トシテ變ゼザルベシト雖モ、或ハ其減少之ニ超ルコトアレバ、勞銀ハ却テ低下スベシ、即チ五人ノ中、一人缺員スルトキ、勞銀元手減ジテ七圓トナラバ、一人ノ得ル所一圓七十五錢

ナルベシ、且ツ勞動減ズレバ、物貨ノ造出少ナク、其價モ亦隨ヒテ騰貴スベシ、然レハ、總テ之ヲ買フ者ノ勞銀ハ、又低下スルノ理アリ、第十五章ヲ見ヨ

第二、若シ、人其勞動ヲ廢シテ、他ニ作エヲナサレバ、其人ノ消費ハ、總テ無用ノ消費ナリ、即チ全國ノ費用ニテ養ハル、所ノ游手ニシテ、此費用ノ關係ハ、總テ勞ヲ致シテ、勞銀ヲ得ル者ニモ及ブベキハ、固ヨリ言フヲ待タズ、此ニ至レバ、全國ノ富ヲ減ズベシ、富減ズレバ、財本減ジ、財本

減ズレハ、勞銀減ズ、是レ理ノ常ナリ、故ニ此時ニ方リテ實ノ減ズルト共ニ、法モ亦減之以テ其商ノ多キヲ致スヲ得ズ、

故ニ、傭工ノ數ヲ減シテ、高キ勞銀ヲ得ント欲スルハ、縱令策ノ行ハル、モ、一時其効ヲ得ルニ過ギズ、若シ、其害ヲ數フレバ、物貨ノ供給ヲ減ジ、且ツ之ガ爲メニ、其價ヲ騰貴セシメテ、總テ之ヲ買フ者ノ勞銀ヲシテ低下セシムルノ害アリ、又財本ヲ減ズルニ由リテ、合セテ勞銀元手ヲ減ズルノ害アリ、又國中ニ、遊手浮食ノ民ヲ多クシテ、其

富ヲ減ジ、隨ヒテ其勞銀元手ヲ減ズルノ害アリ
 ○然レモ、傭工ノ數ヲ減ジテ、決シテ勞銀ノ騰貴
 ヲ得ベカラズト云フニハアラズ、即チ國中ニ於
 テ、木工ノ一半死去シ、或ハ他國ニ移住スレバ、此
 ニ由リテ、或ハ少シク財本ヲ減ズルモ、其餘一半
 ノ木工ノ勞銀ハ、必ズ騰貴スベシ、但シ、右財本ノ
 少シク減ジタル故ヲ以テ、其二倍ニ至ラズト云
 フノミ、
 是故ニ、勞銀元手ヲ増加シ、或ハ傭工ヲ減ズルハ
 アラバ、レバ、勞銀ヲシテ貴カラシムルヲ得ズト

云フ、

初學經濟論卷一終

刀匠上屋原一男

三ノ一

三ノ一

反

